

「アポロの改心」

2024年04月17日

さて、アレクサンドリア生まれのユダヤ人で、聖書に詳しいアポロという雄弁家が、エフェソに来た。彼は主の道をよく学び、イエスのことについて熱心に語り、また正確に教えていたが、ヨハネの洗礼しか知らなかった。このアポロが会堂で堂々と教え始めた。これを聞いたプリスキラとアキラは、彼を招いて、もっと正確に神の道を説明した。それから、アポロがアカイア州に渡ることを望んでいたのので、きょうだいたちはアポロを励まし、かの地の弟子たちに彼を歓迎してくれるようにと手紙を書いた。アポロはそこへ着くと、すぐに恵みによって信じていた人々を大いに助けた。彼は聖書に基づいて、メシアはイエスであると公然と立証し、ユダヤ人たちを力強く論破したからである。（使徒 18:24～28）

著者ルカは、ここで突然、アポロについて書いている。アポロはアレクサンドリア生まれのユダヤ人である。アレクサンドリアは地中海に面したエジプトの町で、文化、学術にも優れた、ローマに次ぐ世界第二の都市であった。アポロはこの町で教育を受けたディアスポラのユダヤ人で、聖書に詳しい雄弁家であった。雄弁家は、当時、最も進んだ学問を収めた人を指していた。彼がエフェソに来て、主の道をよく学び、イエスのことについて熱心に語り、正確に教えていた。しかし、洗礼者ヨハネの洗礼のことしか知らなかった。イエスについても知ってはいたが、洗礼者ヨハネの信仰と生き方に心酔し、ヨハネの悔い改めの洗礼について力説していた。ヨハネがヘロデに斬首されてから20年は経っている。しかし、ヨハネの信仰と殉教は、遠くアレクサンドリアまで知られ、しかも、アポロはヨハネを師と仰ぎ、ヨハネについて熱心に語り続けている。ヨハネがいかに人々に大きな感化を与えていたかが分かる。アポロは、エフェソのユダヤ人の会堂で、堂々と教え始めた。彼は優れた学者で、雄弁家であるから、聴衆を魅了するような大講演を行った。この講演を聞いていたプリスキラとアキラは、彼を自宅に招き、正確に神の道を説明したという。プリスキラとアキラ夫婦は、アポロの講演を聞いて、主イエスに対する信仰、福音の真理が分かっていないと思ったので、彼に福音の真理を説き明かしたという訳である。この事実は、非常に興味深い。アポロは、今日で言えば、大学の教授のような大学者である。一方のプリスキラとアキラ夫婦は、最も卑しい仕事とされたテント造りの職人であるから、学がなかったであろう。その夫婦が、アポロは福音を分かっていないと思い、教えてあげた。学はなくとも、福音の真理は受け止められる。夫婦は福音を確かに体得していた。そして、アポロは無学と思える夫婦の教えを謙虚に受け止めた。アポロはプリスキラとアキラ夫婦によって、洗礼者ヨハネの信仰から主イエスへの信仰に改心したのである。これは、教会で起こる素晴らしい学びの共有ではないか。

アポロはアカイア州に行くことを望んでいたのので、エフェソの兄弟たちはアポロを励まし、アカイアの兄弟たちに彼を歓迎してくれるようにと推薦状を書いた。当時は、推薦状によって、互いの交流が広がっていた。アポロが推薦された場所は、Iコリント19章1節に「アポロがコリントにいたときのことである」と書かれているので、コリントであることが分かる。彼は、パウロが立てたコリント教会の二代目牧師として遣わされた。コリントに着くと、聖書に基づいて、メシアは主イエスであると公然と立証し、ユダヤ人たちを論破し、恵みによって主イエス信者になった人々を大いに助けた。アポロは学識があり、雄弁であったので、コリント教会で大きな宣教の成果を上げることができた。